

1. 調査目的等

小・義務教育学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証を行うことを通して、学力向上に関する取組の改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

《短期目標》1時間の授業内容を確実に習得し、自分の考えを書いたり発表したりできる児童の育成

3. 指標にむけての取組

- 「問いづくり・思考づくり・価値づくり」を盛り込んだ授業の継続実施
- 算数科重要単元における分割授業の実施(学期1回)
- 朝学習または「いなひがタイム」を活用した基礎的・基本的な学習の実施(MIM.百マス計算等)
- マイプランカードを活用した学習習慣、基本的な生活習慣の定着指導の実施(年4回)

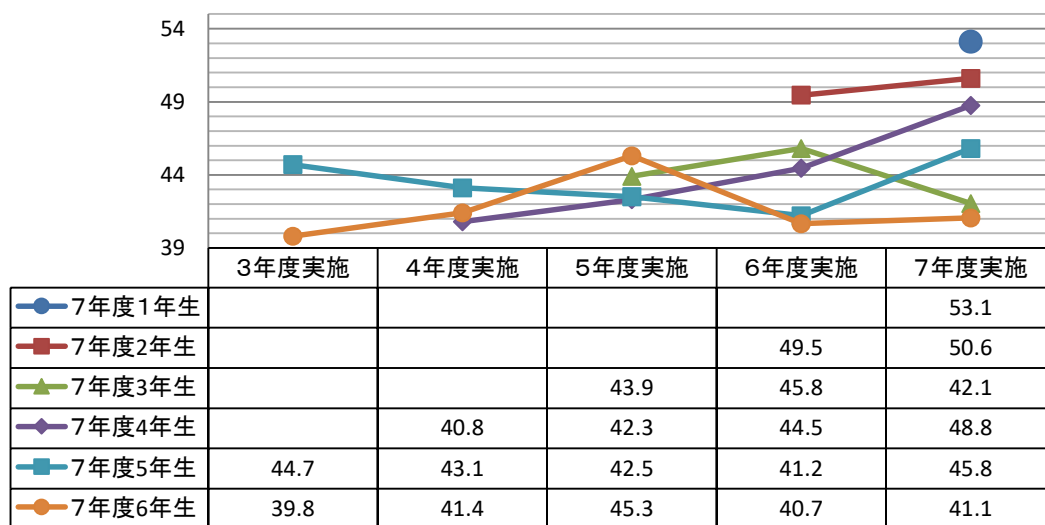
4. 調査結果

※学校平均(国語・算数)5年間の推移

(標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
本校(A)	43.6	42.8	45.2	44.8	47.9
嘉麻市(B)	47.0	47.2	48.5	49.8	50.4
(A)-(B)	-3.4	-4.4	-3.3	-5.0	-2.5
全国値との差 (A)-(50)	-6.4	-7.2	-4.8	-5.2	-2.1

各学年の標準スコアの推移



5. 各学校における分析

○成果…前年度に比べ、国語2.4P、算数3.2P標準化スコアの向上が見られたことは大きな成果である。これは、「問いづくり・思考づくり・価値づくり」を意識した授業実践を継続した成果だと考える。また、算数科において重点単元を設定し、専科教員と協同した分割授業を実施したことも功を奏したと言える。加えて朝学習や「いなひがタイム」の時間を活用したMIMや基礎基本的事項の反復学習を欠かさず実施したことも効果的だったと考える。

●課題…観点別にみると、「知識・技能」に比べ「思考・判断・表現」の数値が低いことが課題である。これは、教師間で「論理的思考力」に関する認識が十分に共有されていないことが要因だと考える。また、学年間で標準化スコアにばらつきがあることも課題である。経験年数だけでなく、職員間で確認した指導方法や学習規律等に関する基本方針が徹底されていないことも大きな要因だと考える。

6. 各学校における今後の取組

○授業改善を第一に「問いづくり・思考づくり・価値づくり」のある授業実践を継続していく。特に「問いづくり」を大切に、教材研究を重ねながら、児童が学習の必要感を抱く「問い」を開発し、児童が思考力を発揮せざるを得ない状況に誘うことが必要になる。

○その時間に活用させる思考力を明確にして授業を構築し、振り返り等の機会を通じ、児童の思考力活用場面を意図的に取り上げ価値づけを行うことが大切である。このため、職員研修の機会をできるだけ多く設定し、共通理解を図ることと指導力の向上を図っていくことが大切だと考える。

○算数科の重点単元においては、学年実態に応じ、本年度よりも分割単元を数多く計画するとともに、単純分割だけではなく習熟度別分割も増やしていきたい。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎組織的に学力向上を図ることができるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行い、周知徹底を図る。

◆校内における学力向上検証委員会において単元テスト(全単元の80%において目標得点を達成できた児童が学級の80%以上になることを目指す)や各学力向上の取組について成果指標をもとに結果を検証し、授業づくりや学力向上の取組の更なる改善を図る。

◆「授業づくりの手順」や「学習指導過程の基本モデル」を教育委員会として示し、それらをもとにした授業改善を推奨する。そのために、校内研修等に指導主事を派遣し、具体的な指導助言や支援を行う。

◆小中一貫教育に基づき、組織的・計画的に内容を設定し、個に応じた課題の提示(AIDリルの活用等)を図ることにより、家庭学習の習慣化及び充実を図る。

※(10×学年+10)分以上の家庭学習の習慣化